

射水市スポーツ推進審議会議事録

1 会 議

期 日：令和5年7月27日（木） 13：30～15：10

場 所：射水市役所会議室401

出席者：

（委員） 川腰会長、古城副会長、大森委員、片岡委員、
竹林委員、寺島委員、開委員、星野委員

（アドバイザー） 富山大学教育学部神野准教授

（事務局） 金谷教育長、久々江教育委員会事務局長、
遠藤教育委員会事務局次長（生涯学習・スポーツ課長）、
鳥本課長補佐（生涯学習・スポーツ課スポーツ推進係）
川淵係長（学校教育課学校教育係）
荒木主査、谷主任、沼田主事、岡本主事、
小林コーディネーター（生涯学習・スポーツ課スポーツ推進係）

2 概 要

- ・開会
- ・委員と事務局の紹介
- ・議事進行（川腰会長）
- ・閉会のあいさつ（金谷教育長）

・審議事項

（1）第2次射水市スポーツ推進計画について

- ・計画策定について
- ・計画策定スケジュールについて
- ・令和5年度 主要事業

【委員からの意見等】

（委員）

各地区5会場で行われていた体力測定会を大きなイベントとして1会場で開催したことにより従来と比べて参加人数は変化したのか。

（事務局）

今年度は100名、昨年度以前は60～80名の参加であり、参加人数は増加した。

（委員）

参加人数を増やすため、さらなるPRに努めてほしい。

（委員）

今年度より富山県できとときとチャレンジやみんなでチャレンジ3015のWEBアプリ

を作成した。射水市でも施策に取り入れてはどうか。

(事務局)

アプリ内にあるチャレンジマップ機能がみんなでチャレンジ3015と同様のものがあり、活用していけるよう努めていく。

・計画の成果と課題について

【委員からの意見等】

(委員)

これまで多くの施策の展開により、スポーツ推進が図られている。新型コロナウイルス感染症の影響により立ち止まってしまったので、新たな計画・企画を進めていく必要がある。

(委員)

スポーツ推進委員の方々が地域で活躍されており学校にもきていただくなど活躍を実感している。指導者の育成だけではなく、スポーツ推進委員の活用も実績として記載をお願いしたい。

(事務局)

市政出前講座「ニュースポーツ・ゆるスポーツ講座」の講師として参加してもらい、活躍していただいている。一方課題として委員108名のうち仕事などの都合により参加される方が固定化している。

(委員)

小学校でのスポーツ推進委員の活動がとてもよかったと聞く。こういった声を広げてほしい。また、スポーツを支えるにはボランティアの方が必要不可欠だが、市内にどのくらいボランティアがいて、どのくらい参加したのか。また目標値はあるのか。

(事務局)

具体的な数値はないが、ボランティアを要請している競技団体も高齢化で大変だという声が年々増加している。

・射水市スポーツに関する意識調査結果の概要について

【委員からの意見等】

意見無し

・計画骨子(案)について

【委員からの意見等】

(委員)

アスリートの発掘・育成・強化とあるが、発掘について具体的にどのような取り組みが考えられるのか。

(事務局)

現行計画にも「発掘」という言葉が使われており、これまでも強化練習会など発掘の取り組みを行ってきている。

(委員)

県の「未来のアスリート発掘事業」は公募でセレクトした選手をトレーニングしている。こういった事業を射水市でも検討してほしい。

(委員)

今年の6月にハンドボール女子日本代表合宿が射水市で行われたが、宿泊先が富山市になるなど射水市内で全てをまかなうことができなかった。射水市は宿泊施設がネックであり、スポーツツーリズムのようなスポーツと観光(宿泊)がセットになったものがあるとよい。例えば、オリバースポーツフィールド射水を利用した場合、このような宿泊先があるといった紹介をするなど検討してほしい。

(事務局)

今年度、オリバースポーツフィールド射水では3件の合宿があるが市内に宿泊するのはそのうちの1件だけである。本市としても体制づくりが必要と考えており、計画の中で検討していく。

(会長)

委員の発言も踏まえ、市としても取り組んでほしい。

(委員)

部活動の段階的な移行の現状について問う。

(事務局)

本市としては、昨年度3競技、今年度3競技をモデル競技として課題を整理しながら中学生のよりよい環境となるよう休日の部活動の地域移行を進めていく。

(委員)

総合型地域スポーツクラブ運営を支える人材の育成について具体的な取り組みを教えてください。

(事務局)

現状市内5つのスポーツクラブがあるが、どこも運営に携わる方の高齢化が進んでいると聞く。どのような支援ができるかSCネット会議を通して意見を伺いながら進めていきたい。

(委員)

担い手が不足している。他自治体では市役所職員が運営に参加しているという話も聞く。一緒に頑張っていければよい。

・報告事項

(1) 公共(スポーツ)施設の見直し状況について

【委員からの意見等】

(委員)

大島体育館を使用しているが、現状不便は感じていないが、個別施設計画において、施設の民間への譲渡、解体など書かれているといつなくなるのかと不安である。教室が開催されると多くの方が集まるが活動場所がないと開催もできず困る。

(事務局)

今後の人口減少、市の財政状況を踏まえて策定された個別計画であるが、活動場所の確保も踏まえ、民間への譲渡をまずは検討していく。

(委員)

予定の2館も老朽化が進んでいる。大規模修繕の話もあるが、全館を閉じるのではなく、順番に工事していき活動場所を確保していただきたい。

(事務局)

休館期間を少しでも短くするため庁内及び関係課、施設管理者と協議を進めている。

(委員)

スポーツはしたいが交通手段がないといった高齢者の方のアクセスも検討していただきたい。

(会長)

関係機関と協力して検討してほしい。

(2) 休日の学校部活動地域移行の実施状況について

【委員からの意見等】

(委員)

バスケットボールを例とするが、バスケットボール部がある学校にしか募集をしていないのか。

(事務局)

本来であれば広く募集するべきだが、現状は学校部活動に加入している生徒のみを対象としている。

(委員)

今後広く募集していくのか。

(事務局)

そのような方向で考えている。

(3) その他

・次回審議会の開催について説明

10月に開催予定

【委員からの意見等】

(委員)

スポーツ少年団の加入者数が昨年度と比較して150人ほど減った。子供たちがスポー

ツから離れているという傾向だと考えられる。市として何か対策はあるのか。

(事務局)

幼児の体力向上支援事業として幼児期より運動遊びに親しむことができる環境づくりに努めている。また、今年度より部活動の加入を推奨にしたが、部活動ではなくクラブチームに加入し全国大会に出場している例もある。本市では中学校入学説明会の小学6年生に放課後の過ごし方の一例として市内総合型地域スポーツクラブの教室一覧を配布するなど多様な選択肢を示しながら支援している。

(委員)

プロスポーツなど本物を見せるという事業はとても効果があると考えている。今後そういった事業も検討していただきたい。

(アドバイザー)

スポーツの価値を再発見する流れもあるが最近ではスポーツを使って新しい価値を生み出そうという動きがある。

部活動の地域移行ではなく地域展開にしようという動きもみられている。協議会方式で、みんなで知識を寄せ集めて検討している例もある。

スポーツツーリズムなどの推進にスポーツコミッションが今後必要となってくる。富山マラソンの効果検証では射水市が1番印象度が高い地域であったので活かしていけるとよい。

昨年度育児期女性の調査をした際、「ライフステージ」ではなく「ライフスタイル」でスポーツの機会提供をしていかないといけないことがわかった。また、射水市だからできることを模索していく必要がある。

意識調査の結果を見ると、成人のスポーツ実施率が男性より女性が高い結果はめずらしい。また、小学生の総合型地域スポーツクラブの認知度が高いことも特徴である。

障がい者スポーツも県のスポーツ振興課で一元化して取り組む動きが始まった。インクルーシブスポーツとして施設の面も含めて多様性を取り入れていくとよいと考える。